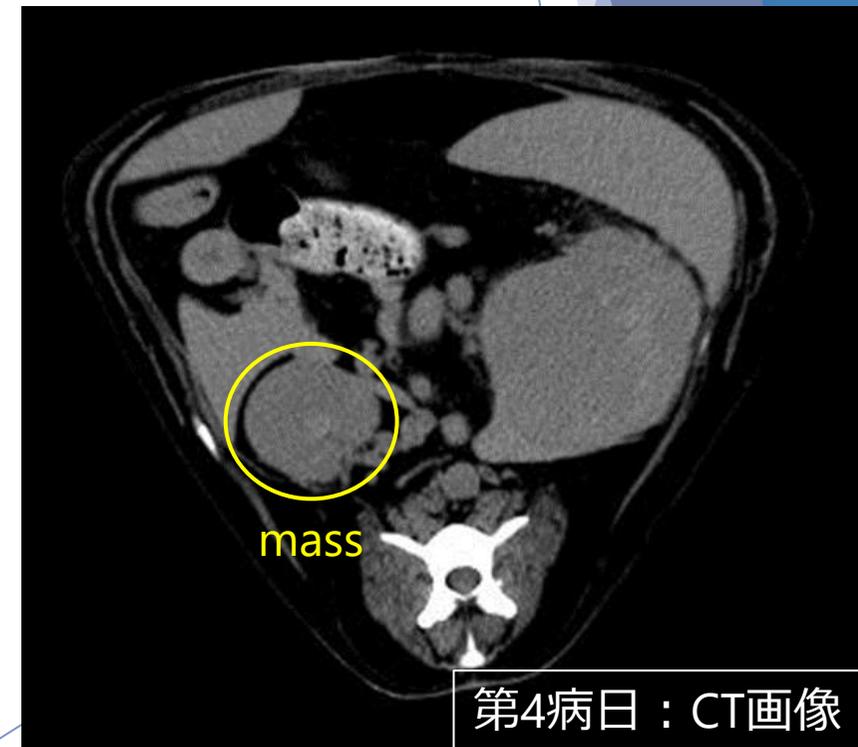
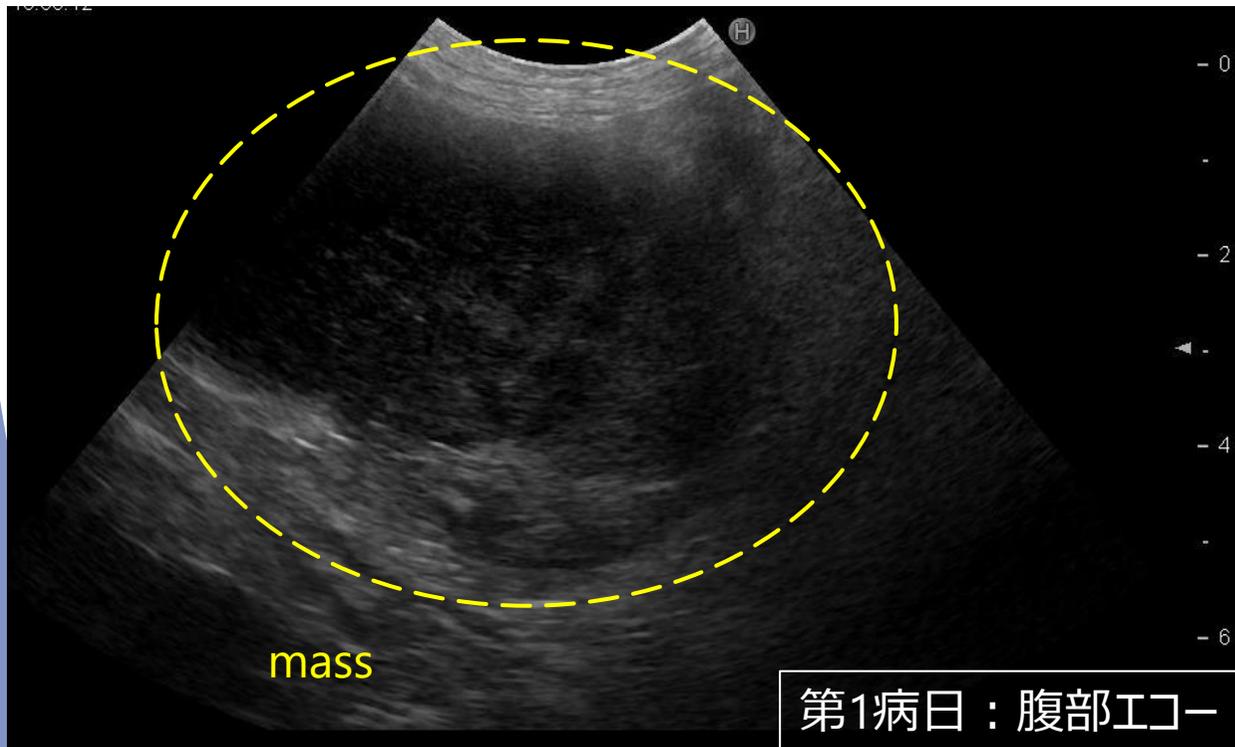


由来不明肉腫（犬）

- ▶ 柴犬、11歳、♀
- ▶ 主訴：食欲不振
- ▶ 既往歴：クッシング症候群（PDH）、胆嚢粘液嚢腫
- ▶ 併用治療：リンパクトデリタブ（BID,1T：治療期間中継続）
- ▶ 第1病日：食欲不振のため来院⇒腹部エコーにて左腎尾側に腫瘤病変φ6cm
- ▶ 第4病日：麻酔下CT検査実施⇒脾臓腫瘤φ6cmを確認



由来不明肉腫（犬）

- ▶ 第7病日：脾臓摘出OP

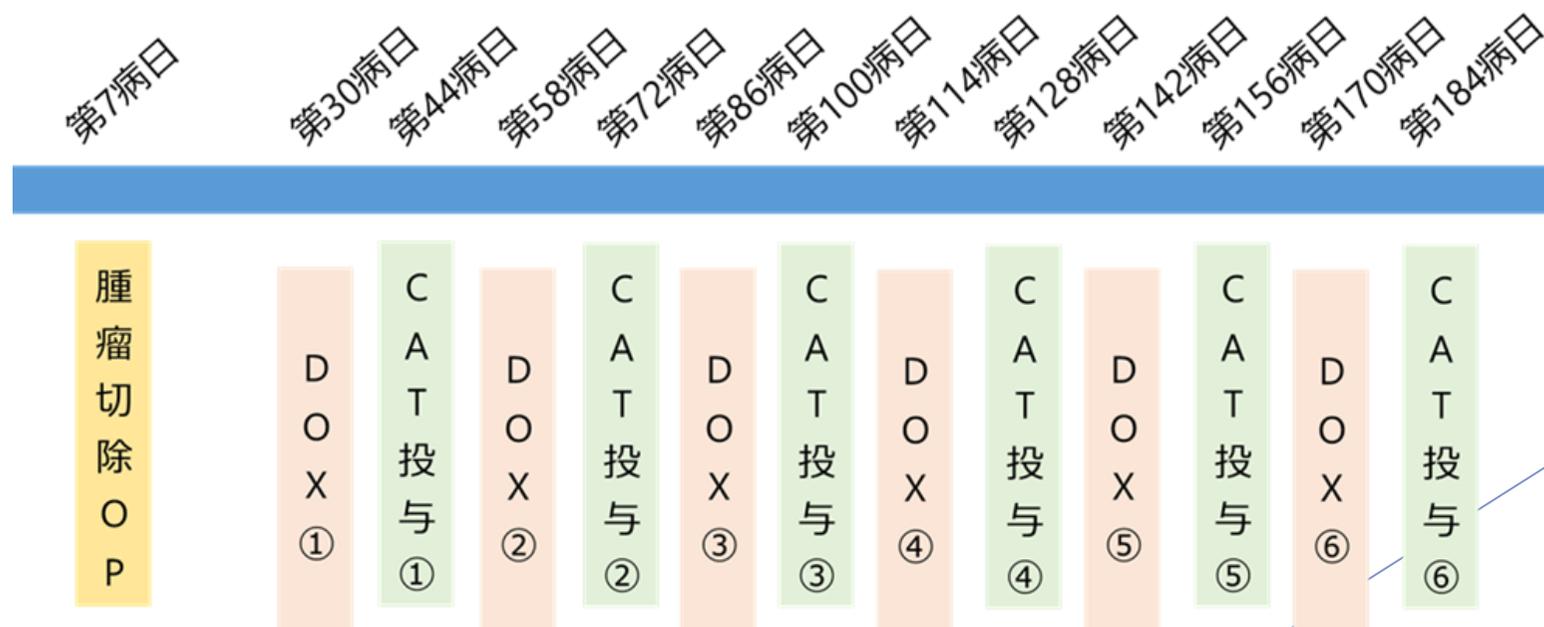
病理学的検査：由来不明肉腫(血管肉腫もしくは組織球肉腫疑い)

- ▶ 第30病日：CAT培養＋化学療法開始（ドキシソルビン21mg/m² iv）

- ▶ 第44病日：CAT投与1回目

- ▶ 以降、ドキシソルビン投与・CAT投与を交互に計6回実施

（CAT細胞数：5.0～35.2×10⁷個）



由来不明肉腫（犬）

- ▶ 3ヶ月おきのCT検査を実施⇒4回目までは明らかな転移・再発所見認めず
- ▶ 6回実施後は経過観察：リンパクトデリタブのみ服用
- ▶ 第480病日：食欲不振のため来院⇒エコーにて腹腔内に腫瘤病変を確認
- ▶ 第490病日：CT検査5回目⇒肝臓尾側に腫瘤病変φ6cm
- ▶ 第496病日：試験開腹OP

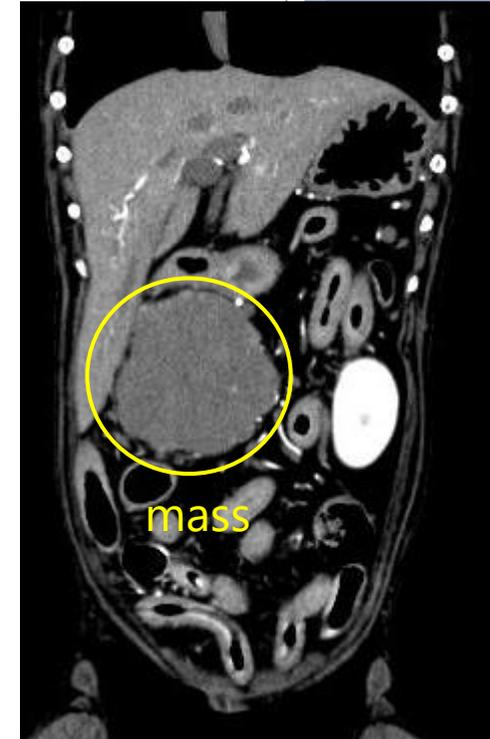
胆嚢に絡んだ腫瘤病変を確認（大網癒着+）⇒できる限り切除
病理学的検査にて由来不明肉腫の報告

⇒腫瘍の再発を認めたため、CAT療法＋化学療法再開

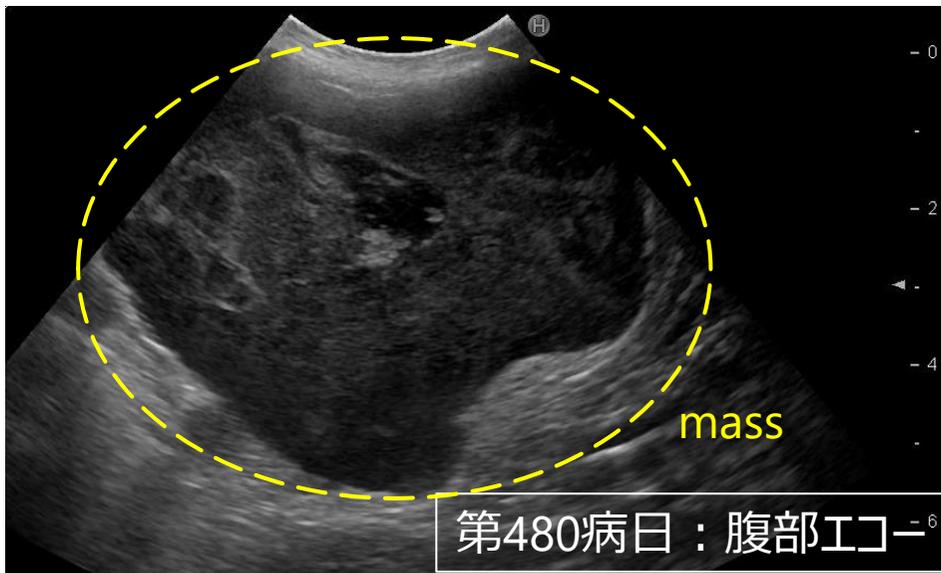
由来不明肉腫（犬）



第490病日：CT画像



第490病日：CT画像



第480病日：腹部エコー

由来不明肉腫（犬）

- ▶ 第510病日：CAT再開（CAT投与7回目）
- ▶ 第524病日：カルボプラチン 210mg/m² iv
- ▶ 第538病日：CAT投与8回目
- ▶ 第552病日：CAT投与9回目
- ▶ 第566病日：CAT投与10回目
- ▶ 第573病日：CT検査(6回目)⇒肝臓尾側に再発を疑う所見あり
- ▶ 第580病日：CAT投与11回目
- ▶ 第587病日：カルボプラチン 200mg/m² iv
- ▶ 第594病日：CAT投与12回目
(CAT7～12回目：細胞数0.3～6.0×10⁷個)
- ▶ 第624病日：呼吸状態悪化し斃死

由来不明肉腫（犬）



▶ 獣医師コメント

- ・本症例から（術後の無再発生存期間は473日、生存期間は624日）脾臓由来の肉腫に対し化学療法とCAT療法の併用が有用であると示唆された
cf.) 脾臓の血管肉腫のMST：外科単独 19-86日、外科＋化学療法 141-179日
- ・抗癌剤とCATの併用による明らかな副作用は認められず、CATの細胞増殖にも影響が認められなかった⇒抗癌剤とCATの併用は可能だと考えられる